

連載

107

# 在宅医療奮闘記

平成7年より  
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (66歳・内科)

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ 雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ・・・」  
のフレーズが、まるでお経のごとく私の体を駆け巡り、元気が出たものです。

平成12年夏ころの話です。松山医療圏の一角の、昔の華やかな頃の面影を残した風情漂う町並みに溶け込むかのように、Aさん(89歳、男性、高血圧症、脳出血後遺症)の家は、ありました。

Aさんは、脳出血により救急病院へ搬送されていたのです。当時は、場合によりますが、看取りまで入院し続けるのが通常でした。しかし、時代はすでに、病院治療

中心から在宅療養ケアへと重心が移っていたのです。当院では国策に従い、早くから在宅医療を開始していましたので、重篤な慢性病(脳出血後遺症などの寝たきり状態)でも、現在では常識となっている在宅療養・介護医療の提供が可能でした。

Aさんの入院先の主治医は、治療方針が異なるとして、退院許可を出しませんでした。本人の希望として、自宅での最期を迎えることになりました。在宅療養の約3か月間、当院の24時間365日訪問診療・往診などで、忙しく対応させていただきました。その結果、Aさんご家族も自宅で看取ることができ、十分満足していた

だいたのです。

私自身はその業務を通して、体を清め、心を浄化し、自己を高め、自然に得るものを精神の支柱としたいと思い、まるで千日回峰を行っているかのように、日々活動していたのです。

しばらくして、Aさんの奥さま(86歳、女性、特別療養老人ホーム入居中)を、Aさん同様に自宅での看取りのお世話をさせていただくことになりました。脳梗塞後廃用症候群でしたが、最期まで、たいそう穏やかに過ごされていたようです。

ご夫婦とも天国に旅立たれ、当然のようにAさん宅とは疎遠となり、また、日々の忙しさに忘れかけていたところ、思いがけずAさんの娘さんから、額縁に入った自筆の書が届きました。それは、あの宮沢賢治の「雨ニモマケズ」でした。

当時、私の“行”は、“継続は力なり”としていました。それは、24時間365日の在宅医療の業務中に「雨ニモマケズ」を、心の中で念じ唱えることでもあったのです。私の“行”を見透かしたかのような、Aさんの娘さんからのプレゼントは、身に余る光栄であるとともに、驚嘆しました。その書は、今でも私の診察室に飾ってあります。

そしてそれを見上げるたび、当時を思い出し、心が熱く、元気になるのです。

ナイチンゲールの言葉が、今も重く私に問いかけます。  
「自分が称賛されるためではなく、この仕事に名誉をもたらすために心して事を成し遂げていこう」と。



## 外来診療(かかりつけ医) 総合内科・漢方診療科

要予約

お医者さんが 24時間・365日体制で対応  
来てくれる (松山市全域)

私たちは、質の高い  
在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 22名  
(常勤8名、非常勤14名)  
内科・外科専門医 18名  
(国立がんセンター勤務歴有3名)  
精神科専門医 2名  
麻酔科専門医 2名  
(ペインクリニック科)  
末期がん治療(緩和ケア)  
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設  
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所  
(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788  
http://www.touzaikai.jp/